

ハウス

ハウス・ミュージックとは？

1977年にアメリカ合衆国シカゴで誕生したダンスミュージックの一つで、シンプルに「ハウス」と呼ばれることも多いです。

シカゴにあるゲイ・ディスコ「ウェアハウス」という店名が名前の由来となっていて、その起源から「性差別」をテーマとする音楽としても愛されました。

音楽的には、元々R&Bやソウルから影響を受けた音楽であり、ブラックミュージックがその源流となっています。

そこからさらに様々なジャンルへと分岐していきます。

ハウス・ミュージックから分岐したジャンル

1. シカゴ・ハウス(起源)
2. ガラージュ・ハウス(ニューヨークで発展)
3. イタロ・ハウス(イタリアで発展)
4. トライバル・ハウス(民族音楽系ハウス)
5. アフロ・ハウス(アフリカ民族音楽系ハウス)
6. アシッド・ハウス(「TB-303」を使ったクールなハウス)
7. テック・ハウス(テクノとの融合)
8. プログレッシブ・ハウス(EDM系ハウスの基本)
9. ディープ・ハウス(クールなEDM系ハウス)
10. エレクトロ・ハウス(アグレッシブなEDM系ハウス)
11. ハード・ハウス(トランスに近いハウス)

ハウス・ビートの特徴

ハウスはR&Bやソウルの要素を取り入れつつ、ディスコやクラブで踊れるダンスミュージックとして進化したジャンル。

当然ながら、ブラックミュージックの大きな特徴である「裏ノリ」は健在です。
(ダンスミュージックは総じて裏ノリとなります。)

リズムパターンとしては、「ディスコ・ビート」と似ています。

- 4つ打ちのキック
- ウラ拍で演奏されるオープンハイハット
- 程よいスウィング感
- TR-909系の王道サウンド

ハウス・ビートの特徴

■ 4つ打ちのキック

ディスコ・ビート同様に、ハウスミュージックは4つ打ちが基本。フロアに鳴り響くキックの重低音は、ハウス・ミュージックにおいて欠かすことのできない存在です。太く、かつ引き締まったキックを大音量でならして、魂を揺さぶるようなビートを作り出していきましょう。

■ ウラ拍で演奏されるオープンハイハット

前述の通り、ブラックミュージックを源流とするハウスは、その例にもれず「裏ノリ」。ウラ拍でオープンハイハットを演奏することで、それを表現していきます。こちらでもディスコ・ビートと良く似ていますね！

ハウス・ビートの特徴

■ ほどよいスウィング感

ハウス・ビートでは、
16分音符単位でやや強めのスウィングをかけるのが特徴。
気持ち良くダンスできるビートを作り出すために、
しっかりめのスウィングで心地よいグルーブを作ってあげましょう。

■ TR-909系の王道サウンド

ディスコ・ビートとの決定的な違いはやはりその音色です。
王道リズムマシン「TR-909」をベースとした
エレクトリック系サウンドでの演奏がこのジャンルのポイントとなります。

ハウス・ビート

パターン①

Clap

パターン②

パターン③

パターン④

Clap

ハウス・ビートの音色選び

先ほどもお伝えした通り、ハウス・ビートでは「TR-909」系の王道リズムマシンの音色を使うと良いでしょう。

とくに「TR-909」が奏でるハイハットの音色は、ハウスを象徴する独特のサウンドとなっています。

もちろんその他の音色も使用可能ですが、基本は「TR-909」の音色に近いものを選ぶイメージでOKです。

- 基本はTR-909の音色
- 太く、かつ引き締まったキック
- TR-909独特のハイハットサウンド

ハウス・ビート打込みのコツ

■ ハウス・ビートのベロシティ

ハウス・ビートのベロシティは簡単で、キックは一定、スネアも2 & 4拍は一定、オープンハイハットのウラ打ちも一定で構いません。

クローズドハイハットによる16分音符の刻み、スネア16分ウラのノートのみ、欲しいグルーヴに合わせてベロシティを調整しましょう。

その際は、16ビートのベロシティの基本に沿って打ち込めばOKです。

■ ハウス・ビートのクオンタイズ

ハウス・ビートのクオンタイズ最大のポイントは、そのスウィング感です。

ハイハットやスネアの16分ウラのノートは、

しっかりとスウィングさせて心地よいグルーヴを作りましょう。

スウィング値は、60%～80%程度と、そこそこ強めにかけて問題ありません。